

# みつくら

平成30年 7月15日 第270号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 御詠歌の大教導試験に合格

光林寺の御詠歌講員は大瀬川に8名いるが、さる6月18日に御詠歌の昇格試験があり8名が最高位の「大教導」に合格した。大瀬川から合格したのは板垣和子さん、板垣幸子さん、板垣ミヨ子さん、高橋あや子さん、高橋厚子さん、高橋久子さん、菅原やえ子さん、畠山節子さんで、平成24年に小教導に合格してから研鑽に励み、その後中教導、大教導の資格を得たもの。今回の前にも3名ほどが、「大教導」を持っている。

## 大竹博士が大澤竹次郎を近く紹介

5月25日岡山県にお住まいの大竹修獣医学博士から大瀬川振興センターに問い合わせがあり、「近く著書で大澤竹次郎先生を紹介したいので資料をお願いしたい」との事で「大澤竹次郎の生涯」を送本した。大竹さんは平成29年5月に著書「獣医学の狩人たち」を大阪公立大学陽動出版会から出版し、獣医科学者28名を紹介した。現在はその続編を編集中で、その中に大澤竹次郎が含まれるとお手紙を頂いた。間もなく刊行されるであろうこの著書は、私たち郷土大瀬川、いや岩手の誇りである「獣医学の祖・大澤竹次郎」を広く全国に顕彰していただく絶好の機会となるであろう。

## 花いっぱい事業で南花壇に花苗植え

第八区自治公民館(熊谷賢良館長)では、6月17日の朝 2班と3班が担当で30人が参加し、運動公園のプール南花壇に550本の苗を植えた。今年は、運営委員が事前に花壇の耕地をし、マルチに目印を付けて置いた事や、予め図面にしていたため作業がスムーズに進んだ。7時のチャイムで植え付けスタートして4種類の花苗を20分で植えてしまった。種類は、サルビアが150本、マリーゴールドのオレンジが100本と黄色が100本、アゲラタムが100本、そしてペゴニアを100本。今頃は綺麗な花が目を楽しませている頃である。

## くずまる大学開講式で神楽入門講座

平成30年度のくずまる大学(菅原敬夫自治会長)の開講式が6月28日に行なわれた。午前10時からの開講式には20名の受講者が出席した。会長の菅原さんは「今年も4回の講座を予定しております。多くの人の参加を頂き、教養を深めていく様にしますので大勢の受講をお願いします」と挨拶された。また主催の熊谷活性化会議会長からは「最近の人口統計でこの大瀬川地域の高齢化率が40パーセントを超えてしまった。しかしこの数字は悲観する物では無く、それだけ知恵のある人が多い事と思っています。この大学で益々教養を深めて活躍して頂きたい」と挨拶があった。研修では、花巻市の文化財課の中村良幸さんを講師に迎えて、今では郷土芸能で一番身近な「神楽」について非常に分かり易く解説して頂いた。その中で、神楽の歴史は神話の時代に遡る事や、神楽は二種類に分けられ、民間で舞われる神楽は里神楽に分類され大きく4つに分類され、この地域にある大瀬川神楽は山伏神楽の早池峰系である岳神楽がルーツで、この早池峰神楽は平成21年にイコモスの世界文化遺産に指定される位、貴重な神楽であるとも話された。また、7月17日から9月末まで大瀬川館から出土した遺物を花巻で初めて展示するので是非、大迫の市立総合文化財センターにおいて下さいとのPRもあった。

## 消防ポンプ操法石鳥谷大会開催される

消防ポンプ操法競技会石鳥谷大会が6月17日石鳥谷総合支所駐車場で開催された。最初は、ポンプ車5団体の競技となり、2番目に当地区の13分団1部が出場となった。この二週間前に、2番員の藤原誠さんが肉離れを起し、急遽板垣生栄さんが出場となったが、競技中に足をひねるアクシデントに見舞われ惜しくも入賞を逃した。休憩を挟み続ければ、小型ポンプ8団体の競技で13分団2部が最初に出場、練習の時より好タイムが出たが、その後も好タイムが出てタイムでは4位となった。しかし、3番員の菅原亮さんが減点0で最優秀個人賞を獲得! タイム以外の点数で上位となり総合2位となり、花巻大会出場となった。7月1日に花巻農協本所駐車場で行われた花巻大会では、残念ながら5位となり県大会への出場は出来なかった。この取材を通して、ポンプ操法は体で覚えて現場での的確な処置や事故防止の基礎習得の機会であることを知った。仕事と両立しながらの練習本当にお疲れ様でした。

## 表彰(敬称略)

消防ポンプ操法競技会石鳥谷大会3番員最優秀賞 菅原 亮  
 花巻市中学校総合体育大会バトミントン2位 畠山鈴未  
 花巻市長表彰  
 菅原重子(男女参画推進功労)  
 板垣眞喜子(市国民健康保険運営協議会功労)

## 熊谷岳郎県川柳連盟理事長が講演

東内屋敷(とねしき)家の熊谷岳郎県川柳連盟理事長の講演会は、5月26日に大興寺で行われ、檀家の60名が聴講した。熊谷さんは「俳句と違って川柳には決まりが特になく、誰でも気軽に作れます」と例句を挙げて皆を笑わせていた。参加者は川柳を一句持ち寄ることになっていてその紹介に入った。合格川柳は、精々二つか三つ選ばれるのだろうと思っていたが、最初の句は「合格!」の判定に「ボク・・ボク・・ボク」とのどかに三回木魚が鳴った。連続で鳴ると思っていたので、その木魚の拍子抜けにどっと笑いが流れた。名前は言わないので、誰の作品か分からない。講師の判定は甘いも甘い、紹介した句の半分以上が「ボク・・ボク・・ボク」。「川柳は笑いが大事」「賞品は出ないがたいしたもんだ」と次々に「ボク・・ボク・・ボク」。なかには「もうちょっとユーモアが」と「ボク・・ボク」と「ボク」があった。熊谷さんは、国鉄職員で車掌に勤務。定年は東北新幹線の車掌であった。同じく国鉄に勤務していた前県川柳連盟理事長藤沢岳豊がいた縁で昭和49年藤沢岳豊に師事。昭和58年いわて紫波川柳社創設し主幹となり、平成11年にはいわて川柳社主幹、平成11年に「川柳句集・風はうたう」を発刊した。ひろっこ岩手の「ひろっこ川柳」にゲスト出演したり、NHKラジオの「まじょごじえ川柳」などでお馴染みの方である。尚、東内屋敷家は旧小屋敷家(現在の栗ノ木籠家)の東に有ったが、昭和40年頃紫波町北日詰に転居している。

## 釣り大会が開催される

昭和42年から休まず続いている、第52回葛丸川淡水魚愛護組合主催の釣り大会が6月24日朝6時より熊谷役員の笛の音とともに開催された。参加者は、一般38名(女性2名)ジュニア12名(女性2名)その他役員や家族など含め約80名(昨年より10名少ない)だった。開始30分くらいに八幡の菅原善憲さんの竿に大物(結果52cm)がヒットして注目。入賞者は一般の部 大漁賞 1位 佐藤豊満(紫波町)62匹 2位 齊藤 誠(盛岡市)43匹 大物賞 1位菅原善憲(石鳥谷)52cm 2位 山口興祖次郎(紫波町)23cm ジュニアの部 大漁賞 1位 鎌田基久(石鳥谷)14匹 2位 熊谷光哉(大瀬川)10匹 大物賞 1位 菅原永織(大瀬川)23cm 2位 熊谷翔梧(大瀬川)22cm ブービー賞 一般の部 阿部義光(花巻市)2匹 ジュニアの部 熊谷朋久(大瀬川)5匹 レディース賞 熊谷美由紀(大瀬川)14匹

## 市道大瀬川13号線道路舗装進行中

昨年、着工していた市道大瀬川13号線(県道285号線~菅原豊勝宅付近)残りの約80メートル分の舗装工事が5月19日から8月17日の期間で着工している。工事業者は(株)秋柴重機で259万円となっている。

# みつくら

平成30年 7月15日 第270号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 大瀬川ゆかりの松本さんが出版

板垣床屋家生まれの松本詔子さんは、盛岡市に住んでいるが、その長男である松本大介さんの著書が新聞でも紹介され評判を呼んでいる。著書は「本屋という物語を終わらせるわけにはいかない」で今年3月25日に出版された。本の帯には「思考の整理学、文庫X、さわベス・・・東北・盛岡の地からベストセラーを連発したさわや書店長の著書。本を買うことが日常の未来を造る。本屋に集まってもらうのではなく、自ら飛び込んでアイデアを携えて売りに行く（途中略あり）」とある。松本さんは明治大学を卒業と共にさわや書店に入社後、店頭でアイデアを駆使してベストセラーを連発し「さわベス」の新語を造り出すとともに、そのさわベスが全国のベストセラーとなって広がっている。現在、さわや書店フェザン店長。

## 千鳥苑で6回目の紙芝居上演

くずまる民話クラブでは、冬の時期に多かった紙芝居を6月23日に千鳥苑の6月誕生会で語った。平成24年から6回目となるが、上演した題目は「嬢のたまし」を菅原慶子さんが先に語り、「兄ьяんの修行」を菅原佳子さんが語った。最後は「狐の位どり」を菅原千恵子さんが語り入所者から勢大な拍手を頂いた。特にも、千鳥苑は高齢者が多いので方言も分かって頂き小学生とは違い、面白い所では笑いが出た。紙芝居は、全部で20作品があるので、今回はどれがいいか楽しみである。

## 葛丸川に稚魚放流

釣り大会前日行事として葛丸川に大瀬川子供育成会（玉山教会長）の親子によるヤマメ稚魚を「葛丸川ポケットパーク付近」放流した。また、葛丸川淡水魚愛護組合役員で釣り大会現地の草刈り等実施後にニジマス約1200匹（内50cmクラスのニジマスを16匹）をに放流した。

## 高村祭で高橋さんの講話に感嘆

今年の高村祭は、5月15日に高村山荘詩碑前で500名が参加して行われ、7区の高橋愛子さんの講話に多くの方が感嘆された。高橋さんと光太郎の関係は、空襲で東京の画廊を失った光太郎が、昭和20年5月16日に宮澤家の誘いで花巻に疎開した最初の晩を泊めた家であった。今では、光太郎と直接関わった方は少なくなり、当時16歳だった高橋さんの講話は、研究者からも質問されるなど大きな関心を集めた。何の縁で光太郎は高橋家に泊まったのか。講話で分かったのは、その2年後に太田村長となる高橋雅郎は高橋さんの父で、宮澤家に泊まり先を申し出たのがきっかけだった。16歳だった高橋さんは、夕方玄關に現れた光太郎を「大きな背囊（はいのう・リュック）を背負い、とても背が高く、見たこともない大きな革靴を履いた飄々たる大男の姿からは、どうしても偉い人だとは思えませんでした」「東京で暮らしていた光太郎さんは、電気も無く、石油ランプを頼りに屋外の厠（かわや・トイレ）で用を足す時にとっても吃驚してなかなか出て来ませんでした。それは、大きなコガ（桶）に二枚の板にまたがって、上から吊した縄に掴（つか）まってするもんですから」と皆を大いに笑わせていた。

## 菅原さんが「ニュースエコー」に

6月18日の夕方、何気なしにIBCテレビを見ていたら、妻に「早く来て!、菅原敬子さんが映っている!」と呼ばれ、見ると、菅原さんがインタビューの最中であった。この日は、盛岡のアイーナで「八巻黎子・押し花工芸遺作展」が開かれていて、その感想を求められていた。八巻黎子は雫石町の生まれで、エルミタージュ世界芸術遺産認定作家として「還暦を過ぎてから始めた押し花は、独特な技法で表現される叙情的な作品」は世界から評価されているという。菅原さんは「どの作品も魅力的で、素敵でした」と話していた。

## 「東和温泉」で移動ふれあいサロン

8区のアじさいの会（菅原美津子会長）では、小雨でこの時期としては寒い日の6月12日 東和温泉で24名が参加してふれあいサロンを開催した。最初に花巻市内の交通指導員・高齢者班の3名による寸劇で、1名は普通の制服で他の2名はド派手な衣装で身近かな事例による交通安全教室が行われた。続いて、足し算や間違い探しで参加者の脳のトレーニングとなった。また、石鳥谷社協の講話では、最近の福祉用具や介護用品の紹介があり、介護保険でレンタルできる福祉用具や購入できる用具を分かり易く教えて頂いた。特に、実物のイス付き1本杖のターダチェアは特に人気だった。最後は、毎週行っている「元気でまっせ体操」を元気よく全員で行った。その後は、豪華な昼食をゆっくりと食べて3時頃までの時間を、入浴やイングリッシュガーデンの散歩などを過ごした楽しい一日となった。

## 人 事（敬称略）

花巻市社会福祉協議会石鳥谷支部副支部長 熊谷秀夫  
 花巻市公衆衛生組合石鳥谷支部監事 辻村 睦  
 県共同募金会花巻市募金委員会運営委員  
 熊谷秀夫、熊谷るり子  
 石鳥谷夢まつり実行団体協議会副会長及び石鳥谷夢まつり実行委員長 畠山勝敏（平成28年から）

## 9区農家組合が研修会を行う

去る7月1日 第9区農家組合（畠山 正組合長）が渡り温泉「ホテルさつき」で44名が参加して研修会を行った。講師には、花巻農協理事の熊谷正克氏を招き「農業情勢について」と題して、花巻農協合併して10周年を迎えた事や200万トン運動推進、農協改革などが話された。

## たんぼの会がお茶会と昼食会

6月13日に9区自治公民館を会場に、たんぼの会（菅原千恵子会長）主催のお茶会とふれあい昼食会が行われ29名が参加した。お茶会は裏千家師範の高橋宗綾さんがもてなしたもので「何回聞いても作法が分からなくて」と言ったなら、隣席から「楽しんで頂ければそれで良いですよ」の声に励まされ楽しんで来た。ふれあい昼食会では、席をくっつけてくれたので話し相手も増えて話しも弾んでいた。

## 訃 報

西栄ノ上の菅原國雄さんは、6月3日に82歳で亡くなられました。菅原さんは、若い頃に酒屋に10年程酒造りに携わり、その後新堀の板金屋さんに20年程勤務していました。前のかまどから菅原さんのお父さん（金次郎）が分家し、今の場所に家建て菅原さんは2代目でした。8年前には3代目となるご長男が結婚し、同じ敷地内に家建て孫も生まれとても喜んでおられました。作の沢の役員・納税貯蓄組合長・平成15年第7区区長など地域のために沢山ご尽力頂きました。いつも気さくに話しかけて下さった優しい笑顔が目に見えます。菅原さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 事務室 お気軽にお入り下さい

6月24日に葛丸の農村環境を守る会で、親子環境学習会の現地確認の際に、白崖付近にある百目木家のブルーベリー畑に猪除けの発信器を取り付けているのを見つけた。発信器付近に猪や熊が近づくと、センサーが感知してサイレンの音や犬の叫び声また、何者かに襲われた獣のような悲鳴、花火音など様々な音が響き渡るようになっていた。色々音色が変わるので何度も試していたら、百目木家の番犬が必死になって吠えてきた。